

# DATA FILE



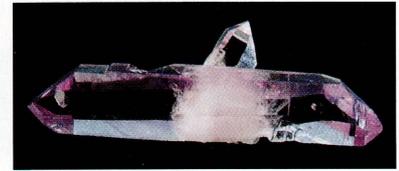
六方晶系

名前	AMETHYST (アメシスト) / 紫水晶
化学組成	SiO <sub>2</sub>
色	紫色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	なし
断面	貝殻状
硬度	7
比重	2.65

# アメシスト

AMETHYST

アメシストは母岩から生えるように成長するため、一方の端しか見られないことが多い。右は、結晶の両端が見える珍しいアメシスト。



水晶のなかでも紫色のものがアメシストと呼ばれ、世界中に広く分布している。

ケイ酸塩鉱物によく見られる、ガラスのような光沢があらわれている。

火成岩の中にできた晶洞の内側に形成されることが多い。

大韓民国で産出したアメシスト。国立科学博物館所蔵『櫻井コレクション』より。

ハンマーなどでたたくと貝殻状の断面があらわれる。

素焼きの陶板にこすりつけると白い条痕が残る。

## 石英のグループ

### 煙水晶



石英のなかでも結晶がよく発達しているものを水晶と呼ぶ。水晶は色によって名前が異なり、紫色はアメシスト、ピンク色はローズクォーツ、黒や褐色のものは煙水晶という。



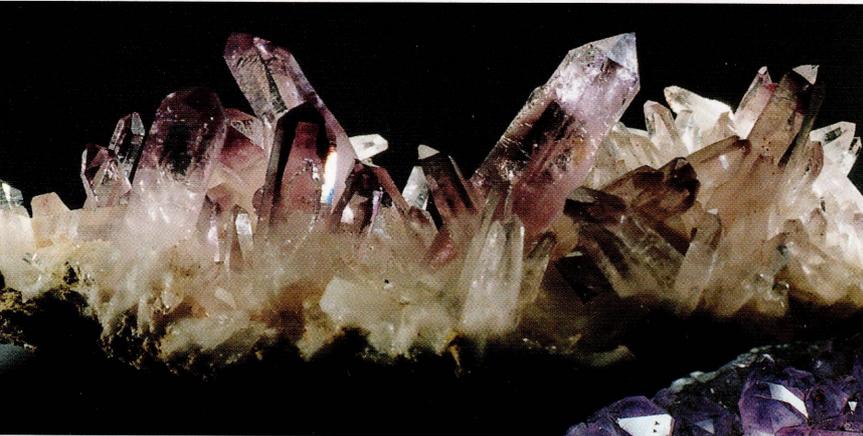
### アメシスト

#### 宝石に利用

2月の誕生石として知られるアメシストは古くから宝石として利用されてきた鉱物で、紀元前3000年の古代エジプト時代にアクセサリーや印章がつくられたという記録が残っている。質の良いものは、全体に濃い紫色をしているが、紫色が斑になったものや、中心が透明で縁が紫色をしているものを、加熱処理によって均一な紫色にすることも可能。しかし、加熱しすぎると、紫色があせて、黄色に変化してしまう。



▶黄色の方解石の結晶がついたアメシストの結晶。



▲メキシコ産のアメシスト。

#### 晶洞の中で形成

アメシストは、火山岩や堆積岩の中の低温熱水鉱脈中に産出する。特に玄武岩のような火山岩の中にできた晶洞と呼ばれる空洞の内側に形成されることが多い。このようなものは、集塊のまま装飾品に用いられる。



▶玄武岩の晶洞の中に形成されたアメシスト。

▼カナダのオンタリオ州にあるサーベイで産出したアメシストの結晶。

#### 主な産地



日本  
宮城県白石市の  
雨塚山が有名。

スリランカ  
良質のものが採れること  
で有名。

中央アフリカ  
質の良いものが産出する。

マダガスカル  
良質のものが見られる。



ブラジル  
南部のリオ・グランデ・ド・スールは世界最大の産地として知られる。



▶アメシストの柱状結晶。